

ファジアーノ J1初戦は 京都サンガ!

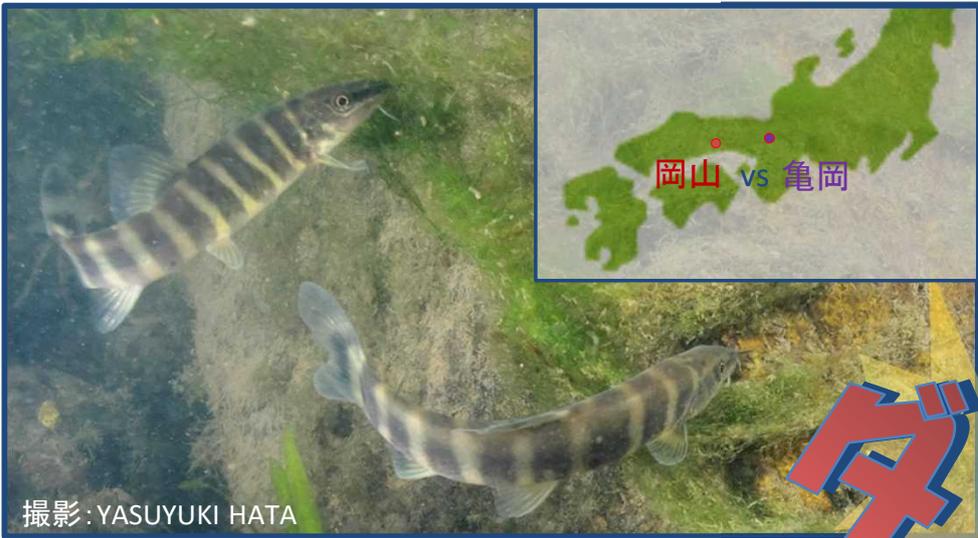


2025年 2月吉日
発行: 中国四国地方環境事務所

世界で生息地は岡山県と亀岡市だけ

アユモドキ

ダービー



撮影: YASUYUKI HATA

ファジアーノ岡山の記念すべきJ1の初戦は、2月15日(土)にホームJFE晴れの国スタジアムにて、京都府亀岡市に本拠地を置く京都サンガF.C.と対戦します。

両クラブチームのホームグラウンドのある岡山県と亀岡市は、野生のアユモドキが生息する最後に残された聖地。まさにアユモドキダービーです。

サッカー観戦を楽しみながら、希少な魚のことも考えてみませんか。

号外
ヘディング
シュート

Are you mou
Doki Doki?



岡山では、市民、民間企業や行政が協力し、アユモドキの保護・保全活動が行われています。

生息地近くの小学校では専門家の指導の下、アユモドキの人工繁殖に取り組みしています。人工繁殖したアユモドキの一部は協力企業のピオトープ池で野外繁殖実験に供されるほか、公民館や水族館などでも展示しています。

また、保全団体により、繁殖場所の維持・整備や急激な生



生息地近くの小学校で取り組む人工繁殖の一環として、専門家による事前授業が実施されています。



みんなでアユモドキを守る

岡山編



公民館と保護団体による水辺の生息地の観察会。アユモドキ生息地近くの子どもたちが参加しています。

息環境の変化の把握や密漁防止のためのパトロール、生息状況の確認が行われています。

関連行政機関は、繁殖環境を整備したり、河川や水路の工事においてアユモドキの生息に十分な配慮がなされるよう調整したり、密漁防止活動の強化、大学や研究者との連携を進め、生息状況調査や環境DNAによる繁殖地の特定等を行っています。



キリンビール岡山工場では、アユモドキの野外繁殖実験をしています。



撮影: YASUYUKI HATA

アユモドキは、国指定天然記念物であり、国内希少野生動物植物種に指定されています。より詳しく、アユモドキの保護対策について知りたい方は右のQRコードから



ドジョウに近縁な淡水魚でヒゲは6本、大きさは12cm。岡山県から広島県福山市にかけての山陽地方と、琵琶湖・淀川水系(大阪府、京都府、滋賀県)に分布しましたが、現在は岡山県と亀岡市のみで生息が確認されています。

田植えの時期に水に浸った草の間に産卵し、水路、河川と移動、それぞれの環境を利用しながら生活しています。

近年の人為的な環境変化による生息場所の環境悪化や消失、移動経路の分断、密漁、外来魚やカワウなどの捕食により、絶滅が危惧されています。

となりのアユモドキ

サンガスタジアム by KYOCERA 周辺を訪ねて



アユモドキーパーくん



サンガスタジアム周辺のカラーマンホール

アユモドキーパーは、亀岡市観光マスコットの明智かめまるがアユモドキを抱え、アユモドキの保全とサッカースタジアムを盛り上げようという意味が込められています。

亀岡市文化資料館にてマンホールカード配布中。

Circular Kameoka Lab



施設ではいろいろなイベントが実施されています

サンガスタジアム by KYOCERA の北側に、日本初のプラスチック製レジ袋提供禁止など、世界に誇れる環境先進都市を目指す亀岡市の取組を発信するために Circular Kameoka Lab が昨年8月にオープン。多くの人々が集い、交流し、つながるための拠点施設です。

常設展示として「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」をはじめとする解説や、地域発アツプサイクル品の紹介、アユモドキの飼育水槽、楽しく遊んでアユモドキや環境について学ぶ「あゆまもカードゲーム」などがあります。

あゆまもカードゲーム



小さなアユモドキが成長していくゲーム

またアユモドキを捕食するオオクチバスなど外来魚の駆除、生息地における清掃活動、密漁防止パトロールをはじめ様々な環境保全活動を実施しています。

たとえば、農業用堰の起伏や農業用水の配水停止により、河川や周辺水路の一部で水が涸れるため、そうした場所に取り残されたアユモドキたちを救出しています。

さらに、生息環境の再生整備実験、市役所や亀岡市文化資料館、小学校、保津川遊船乗船場、サンガスタジアム by KYOCERA での飼育展示など多岐に渡る活動を展開しています。



保護団体や行政による魚の救出活動

みんなでアユモドキを守る

亀岡市では市の魚、環境保全のシンボル

保津川下りの舟は岡山由来！

保津川下りといえば京都の観光目玉のひとつ。その舟乗り場は亀岡市、サンガスタジアムやアユモドキ生息場所のすぐ近くにありま。かつてこの保津川下りに用いられて来た高瀬舟の起源は、岡山の吉井川の高瀬舟。

慶長9年(1604年)に京都の豪商、角倉了以(すみのくらりょうい)が吉井川(和気川)を往来する高瀬舟を見て、保津川の開削を思いつき慶長11年(1606年)に保津川の舟運を疎通しました。



保津川を下る高瀬舟

亀岡市内での保全活動の他、水族館、高校、大学、研究機関、民間企業などが協力し、生息域外保全も行っています。

【編集後記】

ファジアーノ岡山のJ1昇格、何と初戦に京都サンガF.C.とアユモドキ生息地対決！

これを機に、亀岡と岡山の環境保全や文化間の交流が深まればいいですね。



アユモドキマン